

## 考古学探偵団 ～雄山古墳群を推理せよ～

坂出市府中町から高屋町にかけての地域はたくさんの古墳が築かれています。その中のひとつである雄山古墳群では平成 8 年度に古墳時代後期に属する 4 基の古墳を調査し、石室から多くの副葬品類が出土するなど、古墳の構造や埋葬を考えるうえで貴重な資料を得ることができました。

本講座では、後期古墳の埋葬を探ると同時に、発掘調査で得られたデータから歴史を推理する考古学の手法の一端を説明します。

## 1. 歴史を推理する手法

①文献史学……文字 「史料批判」

②考古学……掘り出したモノ 「他分野との連携」

データを集める → 年代を決める → 総合的に歴史を復元する

衣食住（生活）・集落・墓・宗教・文化・社会・政治など多岐にわたる

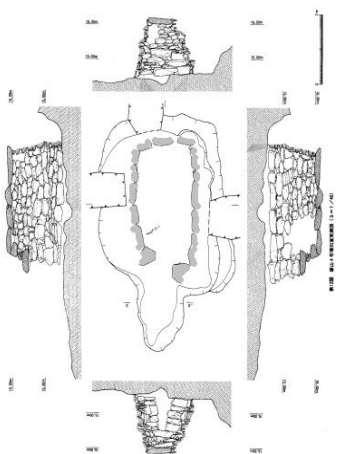
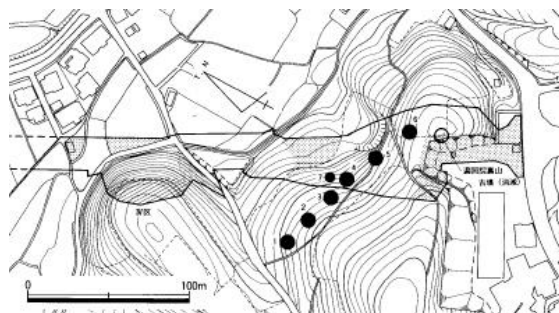
## 2. 雄山古墳群（坂出市高屋町）を例に考える

## ① データを集める（発掘調査）

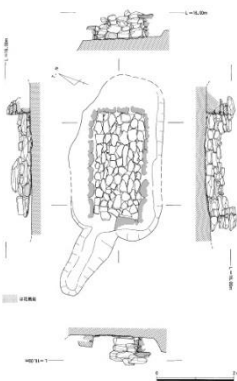
A：4～7号墳の調査

- ・ 7 基の円墳から成る古墳群
- ・ 県道建設に先立ち平成 8 年度に調査

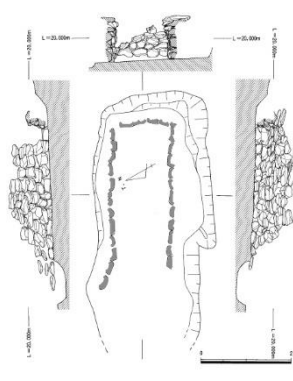
B：遺構（墳丘・周濠・石室など）



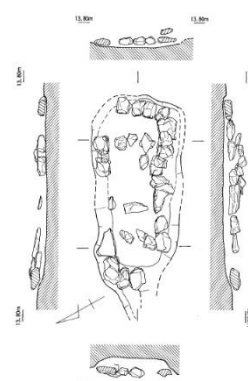
4号墳



5号墳



6号墳



7号墳

縮尺不同

古墳	墳形	直径 (m)	周溝	石室	通路	玄室			備考
						長(m)	幅(m)	高(m)	
4号	円	11.8	○	縦系	墓道	3.5	1.6	1.5	盗掘
5号	円	8	○	縦系	墓道	2.6	1.2	—	未盗掘
6号	円	12	○	横穴	羨道?	2.9	1.2	—	未盗掘
7号	円	6.5	○	縦系	墓道	2.5	0.9	—	未盗掘

表1 各古墳の主なデータ

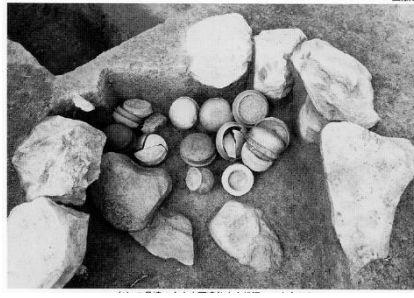
C：遺物（石室内・石室外）

古墳	土器		鉄器			玉類	鏡	埴輪	
	須恵器	土師器	馬具	武具	農工具			円筒	形象
4号	△	△	△	△	△	△	×	○	○
5号	○	○	×	○	○	○	×	×	×
6号	○	○	×	○	○	○	○	×	×
7号	○	○	×	○	×	×	×	×	△

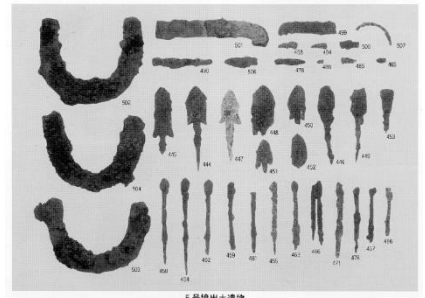
表2 各古墳の副葬品データ



5号墳の土器類



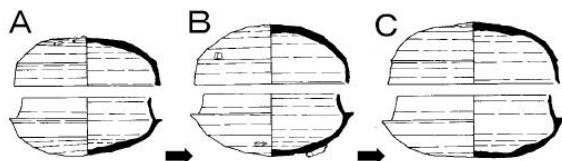
7号墳の土器類



5号墳の鉄器類

②年代を決める

・時代の物差し……土器類（形の変化）が有効



4号墳………（B・C）？

5・6号墳………B・C

7号墳………A～C

※これ以外にも、埴輪、副葬品の組み合わせなど

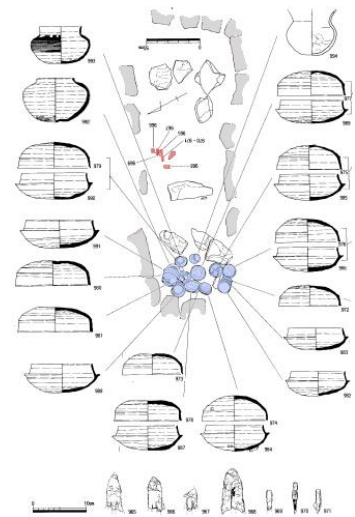
③石室内の埋葬を推理する（発掘で得られたデータ）

A：副葬品の種類：どんなモノが

B：副葬品の位置（配置）：どこに

C：副葬品の時期：どんな順に

D：副葬品の意味（役割）：どんな意味を



3. おわりに

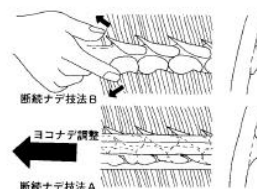
古墳の立地……瀬戸内海（綾の津）にほぼ接した位置

石室の検討……九州・近畿の石室の属性を併せ持つ

埴輪の技法……和歌山～瀬戸内海南岸～九州北部に分布

	共通点	相違点
墳丘	円墳 周濠	規模
石室	羨道を持たない？	構造（袖部） 床面構造
副葬品	鉄製武具（鉄鏃）を持つ 須恵器を大量に埋納	内容 4号墳：馬具 5号墳：農耕具 6号墳：鏡 7号墳：玉類がない

★雄山古墳群の被葬者は、文物の大流通路である瀬戸内海をなりわいの拠点とした豪族だったのではないかと推察される。←出典：「菅原東遺跡埴輪窯跡をめぐる諸問題」『奈良市埋蔵文化財調査センター紀要 1991』



※他の図・写真は『雄山古墳群報告書』から転載した